

国際的なESG投資の動向と日本での進展の考察 —アセットオーナー主導によるESG投資の動向と日本の夜明け—

森澤 充世

目 次

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| 1. はじめに | 4. 日本での進展 |
| 2. PRI（責任投資原則） | 5. 世界でのESG投資の今後 |
| 3. PRIで見る国際的なESG投資の動向 | 6. 終わりに |

ESG投資はPRIに署名している機関投資家を中心に世界的に拡大している。この拡大の中心はアセットオーナーの活動であり、アセットオーナーの投資信念や投資方針が市場関係者に影響を与えている。ESGのマテリアリティは法律や政策の変化、社会の期待と規範の変化等によって進化する。市場要因に対するアセットオーナーの見解が変化し、ESG投資の市場関係者が成熟するにつれ、ESGに関連する期待や意思決定基準も進化していく。日本でも規範が制定されESG投資が拡大しつつある。国際的なESG投資の動向及び今後の進展について考察する。

1. はじめに

ESG投資と呼ばれる責任投資は、長期の視点からの投資であり、財務情報に加えて持続性や成長性を考慮するために、環境、社会、コーポレートガバナンス情報（その英語での頭文字からESG情報）を活用する投資である。このESG情報は、非財務情報と呼ばれることがあるが、将来に影響を与える情報であり、ここでは将来財務情報と定義する。世界ではこのESG投資が拡大している。そ

の牽引としては、2006年に発足したPrinciple for Responsible Investment（以下、PRI）に署名している機関投資家（注1）での活動が大きい。中でもアセットオーナーのリーダーシップが大きな影響を与えている。日本においてもPRIへ署名するアセットオーナーが増加し市場関係者での取組みに変化が生じている。このPRIが発足した経緯、目指している責任投資とはどのようなものであるのか、ESG投資でのアセットオーナーの役割の重要性を整理し、日本への示唆を考察する。



森澤 充世（もりさわ みちよ）

PRIグローバルネットワーク&アウトリーチ ジャパンヘッド。CDP事務局ジャパンディレクターを兼務。シティバンク等で金融機関間決済リスク削減業務に従事した後、環境学の研究を開始する。カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト（CDP）の06年の世界的な対象企業拡大に伴い、日本担当としてCDPに参加する。10年PRIの日本ネットワーク創設に当たり、日本でのPRI責任者として参加する。東京大学大学院新領域創成科学研究科 博士課程修了、博士（環境学）。